第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
一体的整備に関するもの	物理的な館として空間・場を共有し、シームレスな活用を可能にする、他県に類を見ない大変素晴らしい構想
	MLA連携は主にデジタルを使った連携だが、3館の機能を物理的空間として一体的に検討を進める点で素晴らしい構想となることが期待できる
	美術作品を拠点内の図書館で調べられることは深い学びにつながる。館のつながりが分かりやすいシステムを作ってほしい
	3館それぞれが新しくなることで魅力を増すため、3館がコラボレーションしてどのようにシナジーが生まれるか関心がある
	3館による企画展、ミニギャラリー、イベントなど、新たな可能性を持った施設になることに期待している
	図書館に来館する学生が美術館に行く、あるいは美術館に関するSNS投稿がさらなる来館を呼ぶ可能性があるため、学生が求める機能を充実してほしい
	各館の持つ役割・機能を最大限生かせる固有の施設・設備を設け、緩やかに連結させる形が望ましい（ホール、くん蒸施設、デジタルスタジオ、３館職員情報共有スペース）
	各施設がゆるやかにつながるような構造を作り、そこに県民が憩うことのできる開放的な空間を創出することが求められる
	設備の共有化によってつながりのある空間を演出できると良い（コンシェルジュ、見学ルート、休息所、ラーニングコモンズ、学習スペースの共有）
	共有スペースをどのように作っていくかが学びの楽しさにつながる
	交流の場・広場やバックヤードを共有することにより、相乗効果が期待される
	各施設の機能が十全に果たせるような充実した設備と広さを確保する必要がある（現在の３～４倍）
	インフォメーションがあり、来館時に目的の場所に導く機能があれば使いやすい

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
整備地に関するもの	中心地にも近く、広大な土地があり、公共交通がしっかりしているという理想が実現する良い場所だと思う
	土地が広いため、低層で規模の大きい施設が整備でき、望ましい
	日光街道沿いでインターからも近く、県内各地から集える場所で非常に良い
	自家用車であれば県南・県北からも集まりやすいが、公共交通機関の利便性も考える必要がある
目指す姿に関するもの	県民に長く愛されるような、一体化した施設ができると良い
	50年同じ場所で長く愛される施設になってもらいたい
	誰もが利用できる、大人も楽しめる自由な空間になってほしい
	地域や住民、県民にとって役に立ち、楽しめる施設になってほしい
	県民等しく誰でも、わくわくしながら何かを体験できるような魅力ある空間を実現してほしい
	多くの方に利用していただき、本当の意味で美術館を活用していくことが求められている
	子どもたちの学習に加え、大人が楽しめる施設が本質
	知と芸術の宇宙のような、出会いの場所のイメージを持っている
	人がいて、交流して、新たな文化や芸術が生まれてくるような拠点になると良い
	「文化と知」を「創造する主体」として活躍できる場になることを期待

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
県立施設の特徴に関するもの	県立館の役割をしっかり果たし、市町の美術館・図書館との差別化を図る必要がある
	市町立図書館との差別化を図る（専門資料・郷土情報・一般資料エリアの差別化、勉強スペース、若い世代が自然に集まる書架、児童書の収集）
	静かな読書スペースは確保しつつ、楽しい図書館を目指したら良いと思っていたが、市町立と県立でのすみ分けも重要
	県内唯一の県立図書館であることを念頭に、マニアックな専門書を所蔵してほしい
建物（建築）に関するもの	100年、200年の単位で親しまれる、栃木県ならではの、将来的に文化財となりうる、建物の価値を残す計画にしてほしい
	その施設の目的に合った独自性のある建築を作ることが重要
	美術施設は栃木県に存在する唯一無二の空間と形を持った館が好ましい
	立派すぎると敷居が高いので、誰もが楽しく行ってみたいと思う施設を作りたい
	気軽な動機でも利用してもらえるよう、建物の外観イメージも極めて重要
	各施設の建設設計をコンペで別々の建築家に依頼することも検討すべき
建物（諸室）に関するもの	多様な表現に対応できる空間を実現してほしい
	トイレ数などのニーズに対応し、バリアフリー化した建物としてほしい
	駐車場の立体化や収蔵庫の確保など総体的に考え、各施設で残す機能を選別してほしい
	人の話し声や賑やかさを許容するか、静音性の高い図書館とするか、方向性について意思決定する必要がある

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
資料の保存・継承に関するもの	文化的な作品・史料を保存し、後世に残すための施設・スペースが必要
	収蔵庫については3館すべて同じ問題を抱えており、今後の収蔵品の増加を考え、土地を生かして収蔵スペースを大幅に拡大する必要がある
	どの施設も現在の3～4倍の収蔵スペースを確保するべき
	収蔵庫は大きく確保するべき
	収蔵庫確保のため外部倉庫を借用することは、身近に作品がなく不便、かつ移動の都度コストがかかってしまう
	保存対象ごとに異なる温湿度管理が求められる資料群を残していく際、十分な収蔵スペースの確保と同時に適切な環境下での収蔵も重要
	各職員の意見を踏まえ、価値の「蓄積」のために作品や資料を保存する施設やスペースが必要
資料の保存・継承に関するもの	学芸員が所蔵品を研究する研究機能の確保も重要
資料の利活用に関するもの	収蔵スペースをしっかり確保し、所蔵品を活用しやすくすることが重要
	教育・普及も含めた収蔵品の利活用が可能な体制づくりが今回の基本構想の中で重要
	専門的な知見を備え経験を積んだ人材の育成・確保、及び設備の充実が必要不可欠

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
利便性に関するもの	どんな方でも使える施設にしていきたい
	誰にも利用しやすい開かれた公共施設の概念が重要
	障害のある人ができるだけ気軽に、負担なく行ける施設にしてもらいたい
	ノーマライゼーションに立脚した、誰もがそこで集って憩える交流の場所になることを期待
	バリアフリーを徹底し、障害のある人や高齢者も気軽に行けるような施設としてもらえるのが良い
	バリアフリーを完璧にする（設備、交通手段、アウトリーチサービス、デジタル発信）
	個人のバックボーンの格差をなくし、ハード面だけでなく意識のバリアフリーを目指す
	読書バリアフリーに関する積極的な支援が必要（特に障害者支援、県福祉プラザとの連携・協力）
	県施設として、公共交通や車でのアクセスがしやすいことが重要
	公共交通との結節は重要
	幹線道路からのアクセスしやすさが重要
	道路からの視認性が重要
	現在の県立図書館は地理的に不便である
	現県立美術館は場所がどこか分かりづらく、駐車場が狭い
館相互の連携に関するもの	県立美術館を拠点として、県内全体で鑑賞機会を増やすネットワークを作り、強められると良い
	専門的な資料や書籍を複数館が連携して見せる際、デメリットも出てくるのではないか

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
教育機関との連携に関するもの	一体的整備の中で、学校連携についても引き続き強化・拡充すると良い
	近くにある複数の豊富な内容の教育機関と密に連携して豊かな環境を作ることを望んでいる
	DX化、学校現場との連携が重要
民間との連携に関するもの	カフェやレストラン、物販を含め、民間の力をどう活用するかの仕組みを作ることが大事である
	民間による事業参加は不可欠（施設運営スポンサー、出店、事業の創出、イベント開催）
デジタルの利活用に関するもの（体験）	GIGAスクール構想を通して子どもたちがタブレットに習熟していることから、デジタルアーカイブを通したオンライン鑑賞を可能にしてほしい
	デジタルアーカイブの組み合わせによる横断検索が実現すれば、学びの場が豊かになる
	デジタルを活用し、県内どこからでも同じようなリアルタイムの鑑賞・閲覧ができる場づくりを実現してほしい
	福祉の観点から、どのような方にもアートに触れる機会の実現のために複製展示による鑑賞機会の提供は意義深い
	行きたくても行けない人のためのデジタル活用はありがたく、実物を見たいと思った人は実際に足を運ぶきっかけになると思う
	移動図書館など実際の物流を増やすよりも、デジタルの力を借りて様々な自治体に居住する県民にサービスを提供することを意識してほしい
	デジタル・実物を融合させて学ぶことで、新しい価値創造が実現する
	紙媒体と電子媒体を組み合わせたハイブリッド型な図書館となるような構想にしてほしい
	図書館はデジタル書籍の併用など未来志向の空間が編み出せるようにしてほしい
	原本保存と電子データ活用を両立できると良い
	デジタル化による効率化とデザインの統一化（デジタル事業・人材の集中）

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
デジタルの利活用に関するもの（留意点）	何をどのようにデジタル対応するかがポイントであり、どのようなデジタル化をすれば心地よく活用してもらえるか県民の声を聞いて検討してほしい
デジタルの利活用に関するもの（留意点）	肉筆の価値を見失いがちになる危険性もあり、デジタル技術の使い方も考えていければ良い
	デジタルを活用し制作を行う時代でも、じかに物に触れたり作っていく行為の重要性は代替されないのではないか
	最先端技術を活用しつつ、環境整備や利用支援を行う観点が必要
	デジタルアーカイブ化の実現に向け相応のコスト・人的資源・体制が求められるため県全体で考えるべき
	電子公文書・デジタル資料の収集保存に関連し、県全体の文書のシームレスな管理方法は、検討委員会に加えて所管課とともに検討すべき
	デジタル分野の事業や広報を一元的に扱う部署が必要
集い・憩い・交流に関するもの	「『文化と知』の創造」のためには集い、憩う、交流できる場所が必要（対面かつ、飲食しながら交流できると良い）
	新たな文化や芸術が生まれるような交流スペースが必要
	新しいゾーンが、県民の憩いの場となり、多くの人が集う場となると良い
	イベントやコンサート実施のためホールがあると良い（集会・研修会・儀式にも使用）
	全国的な会議・コンベンションで使用できる会議室や交流場所、気軽に集える諸室も考えると良い
	講座やコンサートを開催できるホールなどが施設の中にあって、障害の有無にかかわらず皆がそういった場を楽しめると良い
	レストランやカフェ、イベントスペース、中小規模のホールなどを、各施設が共有して利用できると良い
	雨天時・猛暑時に昼食などを椅子に座って食べられる場所があると良い

第1回検討委員会　各委員の意見

分類	意見（要約）
県民参加に関するもの	子どもたちが「また来たい」とリピーターになるよう、子どもたちの声を聞きながら進化する施設になってほしい
	県民の具体的な事業参加の仕組みを用意（ボランティア、各施設のファン連携、学習グループ、サークル育成、学習機会）
	地域・県民を巻き込んだワークショップの開催を行ってほしい
	無料で楽しめるミニギャラリーがあると県内で活動している若い芸術家の作品紹介ができる
	県内芸術家の成長のため、一般展示室の新設は考慮しても良いのでは
	若者がチャレンジできるルーキーズエリアなど、文化や芸術に対するハードルを下げた取組が重要
県民の学びや体験に関するもの	若い感性・思考力と文学やアート、学問との出会いにはかけがえのない意味があり、大きな可能性につながる
	本物と、目的を持った、あるいは思いがけない出会いを作る場であり、多くの若い人が豊かな内面世界を培ってほしい
その他	周辺公共施設やまちづくりとの関係の検討も必要
	適切な収蔵環境の確保には相応のコストもかかるため、一体整備の中でコスト面についても議論する必要がある
	開館までの経緯についても県民にしっかり明示できる議論の場になってほしい